幻の広浜鉄道～「今福線map」～の作成

和田 浩

1. はじめに

本年度で３年目を迎える**「幻の広浜鉄道；今福線」研究分科会**の主な活動は、旧線の始発駅にあたる「下府駅」から現在の浜田市金城町今福地内となる「石見今福駅」跡地までの道案内となる map（パンフレット）作成である。当該区間を上・中・下の３つに区分し、各区間での遺構や見所について全体版と合わせて４部構成で作成した。

活動を行う中で、新たな出会いもあり、最終年度となる来年度に向けての活動内容等について提案を行いたいと思う。

2. 活動状況

今年度の活動状況は下記の通りである。

6/16；合同協議（具体的な活動内容、研修日程等の決定）

7/14；聞き取り調査（元ＪＲ職員で現在、浅利寺住職で今福線について詳しい泉さんへの聞き取り調査）

11/10,11；本調査（上・中・下の３班に分かれて現地調査と map 作成の意見交換）

上班･････嘉藤、渡辺、和田

中班･････大畑、河野、小村、桑野

下班･････木村、村上、伊藤、永田　　（敬称略）

12/22；石本さんへ map 提示（map を基に石本さんと意見交換及び地元への配布依頼）

上記の期間内において、班毎で map の作成を行った。

また、9/28（金）には、NHK の「22 世紀に残したい島根の遺産」で今福線について放送された。３分程度ではあったが、今福線の遺構としての概要と本研究分科会の活動が紹介された。

3. 現地調査とmap作成

①案内板の設置

昨年、佐野町寿会により**「おろち泣き橋」**の橋名碑を現地に建立して頂いた。今年度は、県道と市道との交差点部に案内板、市道沿いに案内板と入り口、そして鳴き声（水音）が聞こえる場所にはその立看板が下記のように設置された。設置するには決して安くはないであろうと思われるが、地元の方々の熱い思いが感じられる出来事である。

県道と市道交差点部の案内板

市道沿いの案内板と入り口

水音が聞こえる場所の案内板

②現地調査と map 作成

上班の現地調査範囲は、「下府駅」より下府川を遡って、県道佐野波子停車線場沿いの「今福第一トンネル」までの区間であったが、見所が多かった（？）せいか 1 箇所当りに要する調査時間が思わぬ掛かり、「有福第二トンネル」までしか回ることができなかった。そのため、中班の協力を得て現地調査と map 作成を行うことができた。

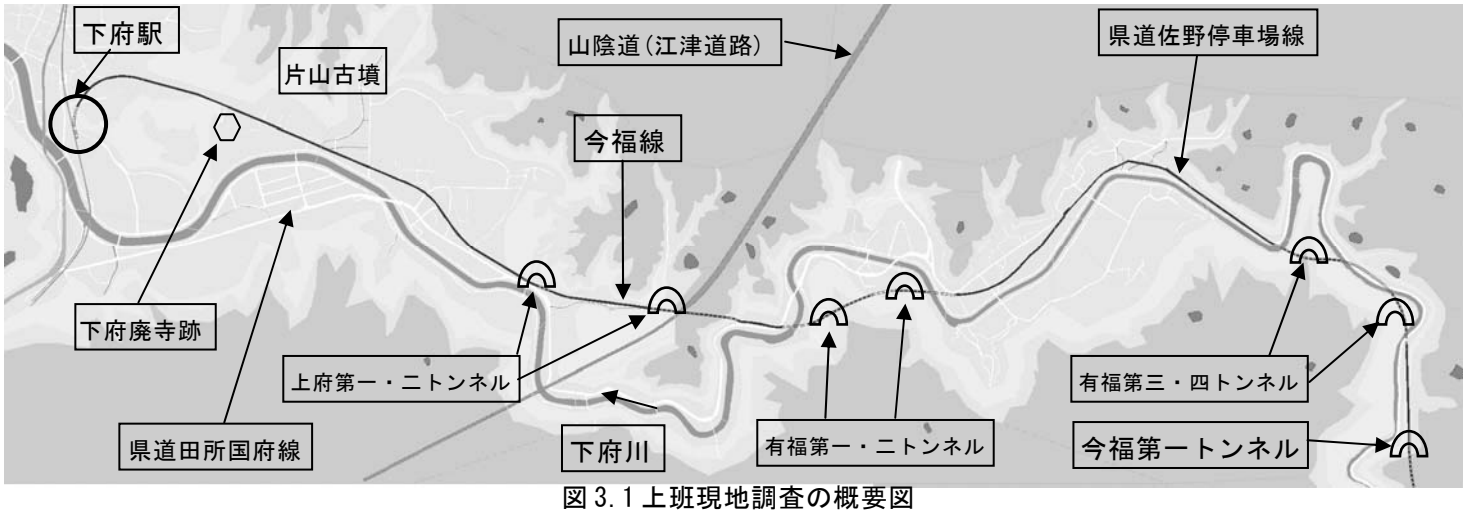


図 3.1 上班現地調査の概要図

下府駅より県道田所国府線との交差付近までは、今福線の特徴の１つでもある、線路上を市道や県道の道路として現在も使用している区間である。橋梁の上部工は、プレテンション方式 PCI 桁橋へと架け替えられているが（橋歴板 S52 年）、下部工である橋台や橋脚は、躯体がそのまま使用されている。躯体幅は車道幅員に比べかなり狭い。そのため、主桁（外桁）より横桁を設置し、張出床版構造として幅員を拡幅し対応している。

拡幅された橋梁

横桁と張出床版

既設躯体幅

また、当該区間には、国指定史跡である「下府廃寺跡」（７世紀末～10 世紀）や浜田市指定文化財の片山古墳（７世紀中）などの史跡が見られる歴史街道でもある。

「下府廃寺跡」は、今福線（国鉄広浜線）建設時に国の史跡に指定された（昭和 12 年指定）。五重塔や金堂を有し寺域が１町（約 109m）四方の規模であったと推定されている。しかし、現在は、当時を偲ばせるよ

下府廃寺跡石碑

寺域想定図

うな面影はなく、石碑・立看板と案内標識が辛うじてその存在を明らかにしている。お恥ずかしい話ではあるが、私自身も始めて知った次第である。

当該区間の遺構と見所は次の通りである。

【遺　構】

橋 梁 他；下府駅出て直ぐの橋台、ボックス、下府川上流域の中に残る橋脚群

トンネル；上府第一～第二トンネル、有福第一～第四トンネル、今福第一トンネル

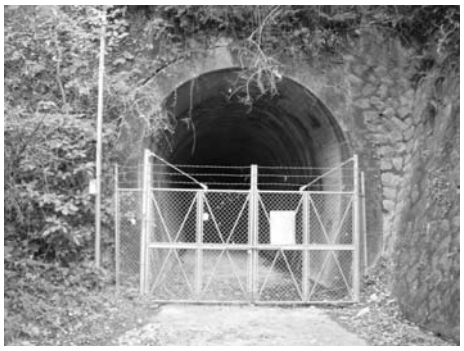
橋台と石積擁壁

ボックス

河川内の橋脚

上府第一トンネルと江津道路

上府第一トンネル坑口上部のひび割れ


上府第二トンネルの立入防止柵

有福第一ﾄﾝﾈﾙ坑口から上府第二ﾄﾝﾈﾙを望む

有福第一トンネル坑口

有福第一～第二ﾄﾝﾈﾙ間の軌道を彷彿させる

上府第一・第二トンネルは、昭和 60 年代まで生活道（市道・県道）として使用されていたが、その後の道路整備等により利用されなくなった。中に入ろうと思えば入れる状態のため、現在は、維持管理上（経年劣化によるひび割れや漏水）や防犯上の問題により、坑口には立入防止柵が設置され閉鎖されている。

有福第一～第四トンネルは、現在、道路沿いでなかったり対岸に存しているため、容易に坑口へ辿り着けない。そのせいか、立ち入り規制は行われていないため、トンネル内には入ることがで

有福第二トンネル坑口

きる。トンネル内は、特に目立った損傷はないため、概ね健全度は保持されている。

【見　所】

史　跡；下府廃寺跡（国指定）、片山古墳（浜田市指定）

その他；・下府廃寺跡付近の切土面には、この地域特有の三郡変成岩で特にダイナマイトを多く使用したとされるオンジャク（温石）が見られる。

・下府廃寺跡より上流側へ向かっては、線路上が市道として使用され約 700m が一直線で見渡せる区間であり、今福線内で眺望のきく場所である。

切土面に見られるオンジャク

眺望箇所（約 700m の直線）

【map 作成と地元への配布】

map には、先述した遺構や見所の他、目印となる建物、バス停、駐車スペース位置と各々の写真とコメントを記載した。

全体版及び各班で作成した map は、年末に石本さんへ提示し、追加・修正事項等の意見を頂くと供に、佐野町の方々へも確認してもらうよう石本さんを通じて配布を行った。追加・修正等については、今年度中（島根県技術士会のホームページへ掲載）に行う予定である。

③新たな出会い

私の知人である川上さんは、現在、浜田市金城町の「雲城地区まちづくり委員会」（以下、委員会とする）の会長をされている（川上さんは金城自治区の副会長でもある）。今年度、「かなぎウエスタンライディングパーク」の解散に伴い、施設の活用方法や馬の行方等について、金城自治区として浜田市へ陳情した際の様子が新聞に掲載された。その参考になればと岡山県総社市にある観光農園「農マル園芸　吉備路農園（西日本最大級）」を紹介した際、島根県技術士会の活動や map 作成についてお話しをしたところ、委員会で作成するマップ（くもぎめぐりマップ）に今福線に関する記事を載せたいと言うお話を頂いた。

雲城地区は、下班で作成する範囲にあたり、新線の「下長屋トンネル」と旧線の両方が現存している地区である。

本研究分科会は、今福線の概要と遺構の写真、そして map を提供するものとした。また、現地調査時には委員会より副会長である井原さんにも同行してもらい、今福線の現状や遺構としての価値、雲城地区の見所等について情報交換を行った。

図 3.2 のくもぎめぐりマップは、H24 年 3 月時点での試作案である。今福線の写真等は記載されているが、路線図は入っていない。そのため、今福線 map の提供によりバージョンアップされることを期待したい。

図 3.2　雲城地区のマップ

4. 来年度の活動に向けて

今年度は、**「今福線 map」**の作成を中心として活動を行うことで、色々とネットワークを拡げることができた。地元の方々や NHK 放送内での map 作成を宣言することで、我々自身にもプレッシャーが掛かり成果を上げる事ができたような気がする。

構想や計画、または建設の段階で中止され、実現しなかった鉄道路線を未成線と呼んでいる。国鉄・JR線の未成線は全国に37路線（全国廃線/未成線地図2006 年版）あるが、今福線のように未成線の計画が2回（戦前と戦後）あり、その遺構が2つとも現存している場所は、全国的にも例がなく珍しい。

「今福線 map」は、来春より島根県技術士会のホームページに掲載される予定である。土木遺産に興味のある人や鉄道ファンあるいは、地元の方々が**「今福線 map」**を片手に散策する姿が見られるようになれば嬉しい限りである。

分科会として最終年度となる来年度の活動に向けての提案等を下記に示す。

(1)map の更新（バージョンアップ）

現在、map に記載されている写真は、本分科会での現地調査時期に撮影したものが主となっている。そのため、季節的には晩秋～初冬に掛けての風景が多い。

よって、年間を通じて（例えば、春の桜が咲く時期、秋の紅葉時期等）遺構を取り巻く周辺の景色や記事等について随時更新して行ければと思う。

(2)地元の方々との連携

作成したmapを石本さんへ提示した際に、**「今福線」**の活用方法等について以下の石本さんの考えを聞くことができた。

①後継者の育成

石本さんは、現在、浜田市読書サークルすみれ会に所属されている。H24年10/24に「秋の史跡探訪－未成線広浜鉄道（今福線部分）を訪ねて」と題して、石本さんの説明の元、24名の会員の方が今福線を回られたとのことである。石本さんによる手作りの資料を拝見したが、丁寧に作成されていた。石本さん自身は年を取るばかりなので、何とか今福線を後世に伝えたい、後継者を育てたい　と言う思いから行動をされており、頭が下がる思いであった。

②新線である「下長屋トンネル」から旧線を巡回する「馬車」の運行

当該区間は、前述したように新線と旧線の両方の遺構を見ることができる場所であり、「下長屋トンネル」の出口は、金城町雲城地区にあたる。石本さんも旧「かなぎウエスタンライディングパーク」の馬の行方を心配されており、馬車による巡回が可能となれば（運行までには諸問題はあるけれど)、馬の活用にも一役買う事が出来るのではないだろうか。

幸い、本分科会は今年度の活動を通して雲城地区（金城自治区）とのネットワークができた。そのため、浜田市佐野町と金城町雲城地区との連携のお手伝いができればと思う。

(3)下長屋トンネル内の現地調査

新線である「下長屋トンネル」は、全長1663mの直線区間であるため、坑口から坑口が見える。しかし、現在は両坑口に立入り防止柵が設置されているため、本分科会での活動ではトンネル内に入ることができていない。そのため、来年度は管理者である浜田市へ立入り許可を得て（鍵が必要）トンネル内を調査し、その利用方法を考えてみたい。

(4)管理者である浜田市へのお願い（提案）

現在「今福線」は、浜田市により管理されている。前述したような新線と旧線の巡回や見学等を行うにあたり、昨年度の報告文にも記したが、安全面（橋梁への防護柵設置・補修）や快適面（道程までの草刈や清掃等）において必要最低限のことは行わなければならず、管理者である浜田市の理解や地元の方々の協力が必要となる。

そのためには、極力費用が掛からず、行政に頼らない対策（手当て）や方法等について提案することができればと思う。

以上

雨天時ぬかるんだ路盤

橋梁上の破損した防護柵